つづき 津付ダムだより

発行所
大船渡地方振興局土木部
津付ダム建設事務所

お問い合わせ先
〒029-2502
気仙郡住田町下有住
字中上 333
TEL　0192-48-3123
FAX　0192-48-3121

津付ﾀﾞﾑ公式ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
http://www.pref.iwate.jp/~hp4580

三十年来の悲願、起工式を開催しました

去る十一月十四日、穏やかな秋晴れの空の下で、地元関係者により工事用道路の起工式を執り行いました。

今回の式は、国道３９７号を付替えるための工事用仮設道路に着手することから開催したものです。

昭和五十二年の調査開始から、実に三十年という「言葉で言い尽くせない」（多田住田町長祝辞より）ほどの歳月を経ての起工式に、出席者一同、感慨深いものがありました。

付け替える国道３９７号や、津付ダムの本格着工は、まだ先ですが、皆様のご期待の大きさを改めて胆に銘じ、一日でも早く工事が完成するよう努力して参ります。

【関係者による「鍬入れ」】（右から大船渡市長（副市長）、大船渡振興局長、住田町長、陸前高田市長、住田町議会議長、地権者会会長、㈱中澤組社長）

種山高原のふもとに縄文の生活がありました

このほど、津付ダムの建設予定地周辺で、埋蔵文化財の発掘調査を行いました。

調査の結果、縄文時代のものと思われる遺構（昔の建築物の残存物）を確認しました。確認した遺構は、焼けた土の跡（炉）が一箇所と、建物の柱の跡（土杭）が四箇所でした。

遺構としてはよく見られるものですが、機械も道路も無い数千年以上昔に、自然条件の厳しい山中で、住居を建て土器を作り、火を使った生活が確かにあったことが分かりました。

（今後の調査結果も、随時紹介していきます。）

質問コーナー

（皆さまから頂いたダムや河川改修、環境問題などへの質問などをご紹介しています。）

（質問）「津付ダム建設事務所」では、どのような仕事をしているのですか？

（回答）事務所には、現在十名の職員（内、三名は臨時職員）が勤務し、主に津付ダムの設計や工事を行っていますが、他にも様々な仕事をしています。

○ ダム建設予定地周辺の環境調査を行い、動植物保護対策や、水質保全対策などの検討を進めています。

○ 振興局土木部と協力して、ダムを含めた気仙川の治水対策を進めています。

○ 大船渡市から奥州市までの一連の国道３９７号改良計画の一部（津付道路）について、設計や工事などをしています。

○ 大股川の一部と、篠倉川の河川管理をしています。

（他にも多くの質問を頂いていますので、順次ご紹介していきます）

気仙川の防災対策マメ知識（第３回）

前回は、**河川水位の位置付け**について紹介しました。
今回は、**気仙川の洪水と対策**について紹介します。

過去の大洪水

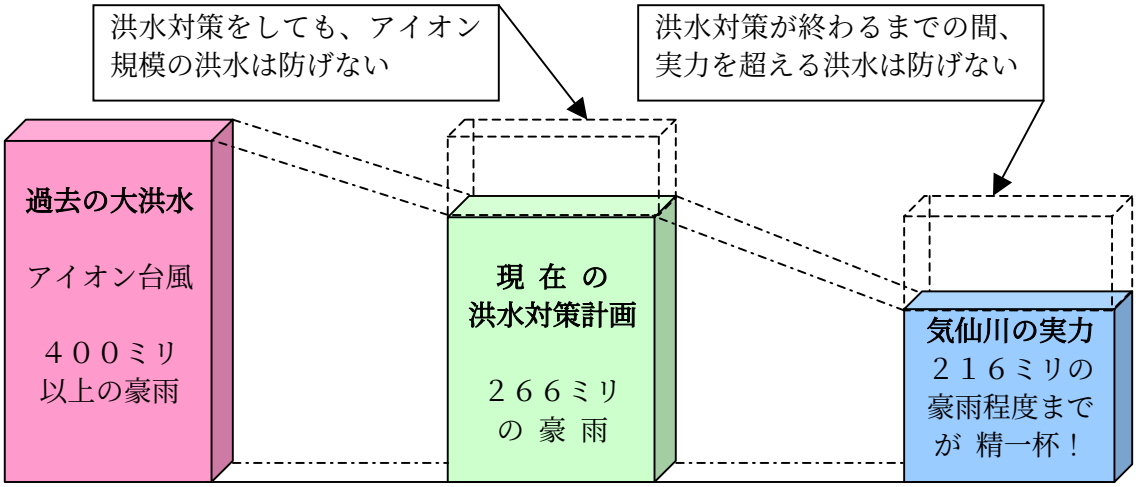
気仙川流域では、これまで何度も洪水被害を受けてきました。
今も記憶に残る洪水といえば、昭和２３年の**アイオン台風**と口にされる方も多いと思います。
このときの雨量は、**４００ミリを越えた**（陸前高田市史、住田町史）といわれています。
今年９月の台風９号では、流域の多いところ（住田町下有住周辺）で約２８０ミリ、少ないところ（陸前高田市矢作町周辺）で約１６０ミリでした。今年の雨と比べても、アイオン台風の雨は相当激しいものだったと想像できます。

現在の洪水対策計画

気仙川の洪水対策は、過去の豪雨を検証し、**約７０年に１度**の確率で発生すると考えられる豪雨に備え、河川改修や津付ダム建設を進めていくこととしています。
この確率での豪雨は、２日間で**約２６６ミリ**の雨が、気仙川流域に平均的に降る量に相当します。

現在の気仙川の実力は？

現在の気仙川は、部分的に河川改修が行われてきていますが、**２０年に１度の豪雨**（２日間で**約２１６ミリ**）を超えるような場合は、住宅や田畑などに洪水被害が発生するおそれが強まります。
※ここまでの内容を模式的に示すと、下図のようになります。



いま、必要なことは？

「７０年に１度の豪雨」といっても、「７０年後に降る」ものではありません。いつ、どんな津波や地震が起きるのか分からないように、**いつ、どんな豪雨があるのか、誰にも分かりません**。
河川改修などの施設整備には、長い年月が必要です。明日降るかもしれない豪雨には、とても間に合いません。洪水被害を出来るだけ小さくするためには、水防（すいぼう）活動の円滑な実施や、速やかで安全な避難体制の整備など、**住民の皆さんと協力して**取り組んでいくことが大切です。

大船渡地方振興局土木部では、河川改修などによる洪水対策と、このような「施設の整備以外」の洪水対策を総合的に検討していくため、県・市・町の治水や防災、まちづくり等の担当者による「ワーキンググループ」を組織しました。
気仙川流域の総合的な治水対策の方向性について検討を進め、来年３月には提言をまとめることとしています。（提言内容などは、本紙などでお知らせします。）